

パレスチナ YWCA ニュースレター2012

「私たちの言葉はよりよい未来を目指した希望と
忍耐と普遍、そして新しい行動の言葉です」

(パレスチナ・カイロス文書より)



昨年一年の変わらぬご支援に、パレスチナ YWCA は心から感謝いたします。皆さまのご協力は、私たちが希望を持ち続ける上で大きな助けとなり何よりも勇気づけられるものです。

The YWCA of Palestine would like to thank you all for your continuous support this passing year; your personal commitment is incredibly helpful and serves as a great reminder for us, above everything else, to keep hope alive.

もくじ

| | |
|---|-----|
| はじめに | …3 |
| 変革の担い手としての若い女性 | |
| YWCA 中東地域会議 | …4 |
| 2012 年・国連女性の地位委員会(CSW) | …6 |
| 自分たちの権利について知らなくてはならない—権利を主張できるように | …8 |
| パレスチナ YWCA:マイスーン・カワーシミによる UNSCR1325 についての研修 | |
| できることから目をそらしてはいけない | …9 |
| オランダ YWCA/YMCA のパレスチナ訪問 | |
| 緊急時即応準備と災害リスク軽減についての調査 | …10 |
| 健康・尊厳・正義を求めて行動を起こす | |
| 2012 年国際エイズ会議 | …11 |
| 若者による対話型手法:参加し変革を求めて活動するために | …13 |
| 紫のユリ(パレスチナ女性)レイブ事件 | …15 |
| パレスチナ女性殺害をめぐる沈黙 | |
| 真のパートナーシップとは? | …17 |
| 政治・社会におけるパレスチナ女性の役割 | |
| 変革をリードする若い女性をエンパワーする若い女性と共に活動するための基本方針 | …19 |

はじめに



2012 年は、中東地域が世界から注目された年でした。この地域に無秩序な騒乱が続き突然の変化がもたらされたからです。しかし、中東地域、特にパレスチナで暮らしている人々は、政情不安の結果引き起こされた不穏で混沌とした無秩序状態の中での生活にほとんど慣れてしまっています。最近中東地域で起きた変化に伴い、また新たな不安と困難が生まれている一方、ずっと待ち望んでいる安心感にはまだほど遠い状況です。

人権、女性の権利、正義に基づく平和を求める闘いはまだ続いており、より集団的な形態を取るようになっていきます。今号のニュースレターでは、パレスチナ YWCA のテーマ別分野、すなわち女性の権利の促進、若者のリーダーシップ育成、そして正義に基づく平和に向けての活動などが、パレスチナや中東地域に限定されたものではなく、世界全体が達成しようと努力している課題であることを示しています。最近のいくつかの変化には、不平等、差別、暴力の根絶と正義を求めて世界各地でデモがおこなわれていることがあります。世界中の若者たちが集まり自分たちの声を世の中に向けて発信しているのです。

「キーワードは若い人たちに耳を傾け、彼らが必要としているものを提供することです。私たちは皆、若い人たちが何を伝えようとしているのか、何がしたいのか、そしてどのように関わりたいかに耳を傾けなければなりません。私たちが理解した最も重要なことは、若い人たち自身が自分たちに何が必要で、何が不足して自分たちがどうしたいのかをわかっているということです。パレスチナ YWCA の課題は、そういう若者たちに自分の意見を発表し参加する場を用意し、連携、ネットワーク、リソースを提供することです。世代を超えたリーダーシップの養成は、私たちにとって非常に重要なアプローチです。あらゆる階級や世代のすべての女性にとって、共に活動して変革をもたらすためには、こうした世代を超えたリーダーシップの養成が必要です。リーダーになることは、どんな若い女性にとっても、最もエンパワーされるプロセスです。女性たちを惹きつけ、支え、エンパワーするわかりやすい方針の枠組みを設定し若い女性たちのリーダーシップを促進していくことは私たちの責務です」

(パレスチナ YWCA 総幹事 ミラ・リゼック)

変革の担い手としての若い女性

YWCA 中東地域会議

パレスチナ、ヨルダン、レバノン、エジプトの YWCA から 23 人を超える若い女性が、ヨルダンのアンマンで 2012 年 6 月 14 日～18 日に開催された YWCA 中東地域会議「変革の担い手としての若い女性」に参加しました。

この会議の目的の一つは、2011 年の世界 YWCA 総会を受けて、中東地域の若い女性のための共同計画とプロジェクトを策定することでした。総会では、上記の 4 つの加盟 YWCA すべてが、変革への力基金の支援を受けてこのプロジェクトを実施することに合意しました。パレスチナ YWCA はこの会議のための募金活動を率先しておこない、Y-グローバルと Y-ケア・インターナショナルおよびノルウェー子どもと青年評議会(LNU)を主要な後援者として迎え入れました。

ヨルダン YWCA のリーム・ナジャーとナジュラ・エンカバビアン、パレスチナ YWCA のミラ・リゼックとマヤダー・タラジなど異なる世代で構成されるチームが会議の実務的作業を担当しました。報告はアルダ・アガザリアンが分かりやすくおこない、スハー・アゾウニはファシリテーターを務めたほかに、国連安全保障理事会決議第 1325 号に関する研修もおこない

ました。このようにして、5 日間の会議が円滑に進行しました。世界 YWCA のマンディ・ノガレダとナガム・ナッサーおよびホダ・エル・マンカバディ(世界 YWCA 中東地域担当運営委員)が世界 YWCA の計画枠組み、および「YWCA における適切な組織運営と説明責任の基準」について研修をおこないました。この研修は参加者にとって非常に役に立ちました。またアラブ世界における女性への暴力に対応するための手順、訴訟、メカニズムについて、ヨルダンの弁護士、アスマ・カハダーとリーム・アブ・ハッサンの二人による講義がありました。映画プロデューサーのナディン・トウカンは、市民社会をはじめとするさまざまな場における関係性の見直しで若者が果たす役割についてセッションをおこないました。さらに研修ではアドボカシー活動の立ち上げ、計画と実施に関する討論もあり、正義と平和の構築に関して幅広い活動をしてきたオマー・バルグオッチとリファト・オデー・カシスが自分たちの体験について発表しました。若い女性の参加者も所属 YWCA について発表し、中東地域の戦略のための主要目的や行動計画を立案したり、グループワークや意見交換もおこないました。



若い女性代表:

パレスチナ YWCA

マヤダー・タラジ／マヤ・サリー／ハニヤ・アブダラ／マヤズ・アブ・レイル／マイルナ・ニューワイザー／ミネルバ・ハルテー

ヨルダン YWCA

ナジュラ・エンカバビアン／ミラ・スメイラット／ルバクノウフ／オラ・ツアワイダ／タラ・アル・カラジャ／ディナ・シャエ

レバノン YWCA

シルビア・ボウ・ヨーニス／ハナン・サード／マリアム・ミカエル／マリエ・ノウア・ラッテル／ナダ・ナスララ

エジプト YWCA

ホダ・エル・マンカバディ／サンドラ・アディズ／サラ・エクラム／サンドラ・ラファエル／マリーナ・ヨセフ

「中東地域の若い女性たちと出会い、一緒に作業できたことはとても幸せでした！ 私たちが暮らすコミュニティにより変化をもたらすには、自分たちの権利の理解と正義と公平についての意識向上が必要であることがこの会議によって浮き彫りにされました」—ハニヤ・アブダラ

「研修は必ずしも講義という形を取る必要はなく、討論、瞑想、絵を描く、ゲームなどの参加型の方法もまた、学び、つながりを持つのに大変良い方法だとこの会議は明らかにしてくれました」—マヤズ・アブ・レイル



中東YWCA「変革の担い手としての若い女性」 行動計画:2013-2015

目標:

女性に対する暴力を根絶し、正義に基づく平和の促進という優先分野において若い女性が積極的に関与する

中東地域での成果目標:

1. 女性に対する暴力の根絶

- ・ 公共の場における女性と少女の安全の強化
- ・ 暴力を受けている女性の保護強化
- ・ 女性と少女に対するドメスティック・バイオレンス(DV)の削減

2. 正義に基づく平和

- ・ 文書化の促進、情報普及、ネットワークおよび連携構築を通して、国連安保理決議1325号を実行する
- ・ パレスチナの平和、BDS 運動¹ならびにパレスチナ・カイロス文書²の認識を広める

3. 若い女性のリーダーシップ

- ・ すべての意志決定機関において少なくとも25%の若い女性が参加し重要な役割を果たす
- ・ アドボカシー活動をする若い女性が連鎖反応を起こせるほどの数になり、エンパワーされ結集しあらゆるレベルの重要な行動に参加する■

¹ イスラエルに対するボイコット・資本の引き揚げ・経済的制裁措置

² 2009年11月、パレスチナのキリスト教指導者たちが発信した声明

2012年・国連女性の地位委員会(CSW)



第56回国連女性の地位委員会は2012年2月27日～3月9日にニューヨークの国連本部で開催されました。2012年度のこの会議では以下の重要分野に焦点が当てられました。

- **優先テーマ** 農山漁村女性のエンパワメントと役割: 貧困、飢餓の撲滅、開発と現在の課題
- **検討テーマ** ジェンダー平等および女性のエンパワメントのための資金調達
- **緊急議題** ジェンダー平等を進めるための若い女性・男性・少女および少年の関与

「農山漁村女性のエンパワメントと役割:

貧困、飢餓の撲滅、開発と現在の課題」

は、なぜ重要なのでしょうか？

農山漁村の女性は世界の人口の4分の1を占めており、リーダー、意思決定者、生産者、起業家、サービスの提供者です。家庭やコミュニティの幸福、地方と国の経済の繁栄をもたらすためには彼女たちの貢献が不可欠です。

それにもかかわらず、農山漁村の女性の権利、貢献、課題はほとんど無視されています。農山漁村の女性はまた、経済および金融危機、不安定な食料品価格、輸出優先の農業などで大きな痛手を受けています。こうした相互に関連する危機への対応策構築過程および、すべてのレベルでの意思決定に、農山漁村の女性が全面的に参加しなくてはなりません。

また、農山漁村の女性が潜在的能力を発揮できるようになれば、貧困と飢餓の撲滅、ミレニアム開発目標(MDGs)の達成促進、持続可能な開発の実現に大きく貢献するでしょう。

世界では:

- 開発途上地域で極貧状態にある14億人の70%が農山漁村地域で暮らしています。そのおよそ3分の1がサハラ以南アフリカ、2分の1が南アジアで暮らしています。
- 2010年には、9億2,500万人が慢性的な飢餓状態にあり、その60%が女性です。
- 農山漁村の男女の86%が農業で生計を立てています。約13億人の小規模農民と土地を持たない農民のうち43%が女性です。
- 世界で4億人の貧しい家畜飼育者の約3分の2が女性です。
- 無給の家事労働はかなりの負担になります。世界で8億8,400万人が安全な飲料水を手に入らず、16億人が燃料を確保ができず、10億人が道路のないところで暮らし、26億人が十分な汚物処理設備がなく、27億人がたき火やかまどに頼っています。農山漁村の女性はインフラやサービスが利用できないため無給の仕事の負担を負っています。
- 中国を除く、開発途上国の農山漁村地域では20才から24才の女性の45%が18歳未満で結婚、あるいはそれに類似する関係になります。都会ではこの割合は22%です。

出典: UN Women



女性が本気で怒るときです

ノーベル平和賞受賞者 リーマ・ボウイー



「私は草の根活動家です。ノーベル賞を受賞してもしなくても、草の根活動を続けていきます」

リーマ・ボウイーは平和と女性の権利を求めるリベリアの活動家で 2011 年にノーベル平和賞を受賞しました。2011 年度のノーベル平和賞受賞者は、エレン・ジョンソン・サーリーフ（リベリア大統領）、リーマ・ボウイー（リベリアの平和活動家）とタワックル・カルマン（イエメンの人権活動家）の 3 人が共同受賞しました。3 人は、女性の安全と平和構築活動に女性が完全に参加する権利を求めた非暴力活動で評価されました。

内戦でリベリアが荒廃した時、ボウイーはキリスト教とイスラム教の女性が一緒にデモをおこなうよう働きかけました。さらに、「平和のための女性リベリア大衆

行動」を立ち上げ、抗議運動とセックス・ストライキを開始しました。元大統領チャールズ・テイラーの追放に協力したボウイーの役割は、ドキュメンタリフィルム『Pray the Devil Back to Hell（悪魔が地獄に帰るように祈る）』の中で描かれています。アビゲイル・ディズニーはこのフィルムの共同制作者の一人です。ディズニーはチューリヒで開かれた世界 YWCA 総会に参加しました。また、各国 YWCA の若い女性たちは、スリランカを訪れた際にディズニーと知り合い、意見交換する機会を持ちました。

「女性の権利、少女の問題、健康に関する問題、エンパワメントに関する問題、経済発展と成長に関する問題はコミュニティからはじまり、コミュニティで継続されなければなりません。私たちが目にする女性への悪習を断ち切るには、コミュニティに立ち返る必要があります」

「私たちはさまざまな場所で座って話し合うことができます。しかし、私たちが求めるリソースがコミュニティにこそ存在していることを認めるまでは、実現の可能性が薄い場所を探し続けるでしょう」

「農山漁村女性に投資すると同時に、私たちは彼女たちの取り組みに学び、必要なところではさらに発展させ、可能なところでは私たちの活動に取り入れなければなりません。コミュニティの変革に向けた答えはニューヨークやダボスでは見つかりません。私たちが本気になって取り組めば変革をもたらすことができます。さらに、私たちが農山漁村女性の強さと力を認めれば変革をもたらすことができます」■

自分たちの権利について知らなくてはならない—権利を主張できるように

パレスチナ YWCA: マイスーン・カワーシミによる UNSCR1325 についての研修



2012年10月、パレスチナのヨルダン川西岸で7年ぶりに地方選挙の投票がおこなわれました。この選挙の背景には、派閥間の争い、停滞する経済、独立国家承認に関する行き詰まりなどの深い失望がありました。しかし、多数の女性が立候補したのは嬉しい驚きでした。

「パレスチナの女性団体は、何年間も努力し、2005年によく選挙法を改正することができました。改正後は、候補者の各政党リストの20%が女性でなければなりません。また、上位5位のうちに1人、そして上位9人のうちに1人女性候補者をリストアップしなければなりません。このおかげで2012年の選挙では、ヨルダン川西岸の94の地方評議会に対して322の政治団体が候補者を出し、立候補者の約4分の1が女性でした。これは、これまでの地方選挙(2004年から2006年までに4回行われた)と比較すると、進歩です」(パレスチナ開発のための働く女性協会 Palestinian Working Women Society for Development)

地方評議会選挙に立候補した候補者総数4,696人のうち1,146人が女性候補者でした。多くの人たちが市長職は男性のみの役職だと依然として信じて

いましたが、ベラ・バブーンは、ベツレヘム初の女性市長に当選しました。大学講師、ソーシャルワーカー、そして、ジェンダー研究者でもあるベラ・バブーンは、今までもそしてこれからも、若い女性に勇気を与える存在です。

パレスチナ社会で勇気を与えてくれるもう一人の女性は、マイスーン・カワーシミです。ヘブロン市初の女性だけの政治組織を立ち上げました。この女性だけの党は493票を得ました。市の議席を確保するには十分な票ではありませんでしたが、パレスチナ女性たちにとっては、必要な一歩とみなされています。

マイスーン・カワーシミはパレスチナ解放通信(Wafa)のジャーナリストです。同時に女性活動家でもあり、女性をエンパワーするための研修をおこなっています。地元や中東地域、国際的にも大きな注目を集めており、CNNやニューヨーク・タイムズといったさまざまなメディアで特集されています。

私たちがマイスーンと初めて会ったのは2011年6月でした。彼女は、MIFTAH(グローバルな対話と民主主義を促進するパレスチナ・イニシアチブ the Palestinian Initiative for the Promotion of Global Dialogue and Democracy)の推薦を受け、女性と平和および安全保障に関する国連安全保障理事会決議第1325号(UNSCR1325)の研修をYWCAで実施しました。YWCAの若い女性会員28名がこの研修に参加しましたが、彼女たちはこの決議について一度も聞いたことがありませんでした。一生懸命参加者の意見を聞くマイスーンの熱意のおかげで、参加者は熱心に女性の権利について学び、対話を通して行動を起こそうという気持ちになりました。

実際、マイスーンの研修に満足した参加者は、より多くの研修にオブザーバーとして参加したいと思いました。2012年の終わりまでに、マイスーンは

YWCA で研修を 5 回おこないました。エルサレム(シエイフヤラ、シルワン、ラス・エル・アムードなど)、ラマラ(アル・ビーレ、ジャラゾン難民キャンプなど)、そしてエリコ(ヌウェイメ、エイン・デューク、アクバット・ジャベル難民キャンプなど)のさまざまな場所から 160 人を超える人たちが参加しました。参加者の大部分は女性で、そのうち 70%は若い女性でした。

「私が目指しているのは、よい方向への変化をもたらし、女性は意思決定者だと示すことです」と 5 人の子どもの母親であるマイルーンは主張します。今年の地方評議会選挙で多くの女性が立候補したにもかかわらず、統計資料によれば大部分のパレスチナ社会の女性は昔ながらの役割を背負われています。ヨルダン川西岸の女性のうち仕事を持つ女性はわずか 17%とみられます。最も保守的な地域の 1 つであるヘブロン市(マイルーンの出生地)では、この数字

はさらに 10%にまで減少します。「男性は昔から女性が家にいることを望みます。仕事をするのを許す場合でも、女性の仕事とみなされている教師などの仕事につかせます。しかし、女性はさらに前進して、女性として直面する課題について声を上げ、明確にする必要があります」

マイルーン・カワーシミは、世代を超えた多くの女性を集めた YWCA に深く感謝しました。この研修では、女性たちが積極的に関与し、自分たちの権利を学び、勇気づけられました。研修の終わりに、ある女性が以下のように感想を述べました。

「この 1325 号決議のこともっと早く聞きたかったです。1325 号は、自分たちの見解を表現し意見を聞いてもらうことは、私たちが持つ権利だということを強調しています。自分たちの権利を主張できるように、権利について知らなければいけないのです」■

できることから目をそらしてはいけないーオランダ YWCA/YMCA のパレスチナ訪問

2012 年 4 月、オランダ YWCA・YMCA およびオランダ・オリーブの木キャンペーン運営委員会のメンバーがパレスチナを訪問しました。正義に基づく平和に取り組み、オランダ YWCA/YMCA とのパートナーシップを築いてきたパレスチナ YWCA と東エルサレム YMCA(Joint Advocacy Initiative(JAI)で協力)は、この訪問を歓迎しました。訪問団の皆さんに、パレスチナにおける紛争について、またパレスチナ YWCA と東エルサレム YMCA の正義に基づく平和への取り組み、女性のエンパワメントや若者のリーダーシップに関する活動について理解してもらうことを目指しました。訪問後に寄せられた感想の一部を紹介します。

「パレスチナの平和のために活動しているパレスチナ YWCA や東エルサレム YMCA、そして JAI の前向



きな精神に大変感動しました。パレスチナの人々のように日常的に我慢を強いられる、あらゆる困難を伴う生活には、私なら怒りがおさまらないと思いました。しかしそのような状況にあっても、希望の光を照らし続けようと、パレスチナ YWCA や東エルサレム YMCA、JAI が取り組んでいるさまざまな活動には大いに触発されました。今回、パレスチナを訪れ、皆さんに温かいおもてなしを受ける機会に恵まれたことを、大変光榮に存じます」(バーバラ・バン・ブリエット)

「訪問前には、パレスチナの現状をほとんど何も知りませんでした。一緒に訪問した多くの友人たちも同じでした。しかし最大の問題は、知らないということです。なぜなら、知らないことを変えることはできないからです。

今回の訪問で多くのことに気づき、この美しいパレスチナに無関心ではいられなくなりました。パレスチナの人々に対する不当な扱いに憤りを覚えました。パレスチナ YWCA や東エルサレム YMCA、JAI でお会いした皆さんの熱意に触れ、そのような不当な扱いには対処が可能なのだということを知りました。もちろん、うまく対処するには、多大な努力や働き、そして外国からの支援が必要です。この訪問で出会った皆さんのエネルギーや献身的な取り組みには、勇気づけられ、皆さんが進めている活動はとても重要だと感じました。私には解決策がありませんし、すぐに解決する方法があるとは思えません。しかし、パレスチナを訪れた私たちには、オランダでパレスチナの実情を話し、知ってもらい、理解してもらおうという務めが

あります。パレスチナの問題に関して各国政府は立場を明らかにしなくてはなりません。なぜなら、この問題について無知・無関心であるかぎり、それは無意識とは言え、抑圧する側に加担することになるからです。できることがあるのに目をそらすことはできません。パレスチナを訪れ現状を知り、それを世界に伝えていかなくてはなりません」(ニーナ・メイリング)

オランダ YWCA・YMCA、オランダ・オリーブの木キャンペーン運営委員会、協力団体、ならびにご訪問くださった皆さんには、貴重なご支援に加え、コミュニティに貢献し、よりよい変化を実現する私たちの活動に信頼を賜り、感謝申し上げます。■

緊急時即応準備と災害リスク軽減についての調査

アマン・ハメド エリコ YWCA



「コミュニティ・レジリエンス」(災害に対するコミュニティの抵抗力・回復力)プログラムは、DFID(英国国際開発省)の資金援助を受けて、英国の NGO クリスチャン・エイドとヨルダン川西岸地区とガザ地区にあるその協力団体が進めています。協力団体の一つであるエリコ YWCA は、エリコに近いアカバド・ジャベル難民キャンプ、アル・ヌウェイメ村、アル・デオウク

村の 3 か所でこのプログラムを実施することにしました。OPT(被占領パレスチナ地域)における緊急時即応準備と災害リスク軽減についてコンサルティング会社が調査を実施しました。EPP(緊急時即応準備および計画)、DRR(災害リスク軽減)、CCA(気候変動適応)に関する OPT における現在の実践、知識、理解のレベルが、国および中東地域でみてどの程度か調べるのが目的でした。DRRに関する開発・調整・管理はパレスチナ市民防衛隊がパレスチナ自治政府から委任されており、この調査の開始式が防衛隊主催で 3 つの協力団体によっておこなわれ、西岸およびガザの主要関係者が出席しました。

プログラムに向けたコミュニティの態勢づくりのために、大規模な取り組みとして地域住民に対するボラ

ンティア研修がおこなわれました。ボランティアが一部の住民に偏らないようにするために、YWCA は地域の主要な組織や主だった人々と連携しました。YWCA や地域住民は、このプログラムはこれまでにないもので他の開発プログラムとは異なると考えました。自分たちの生活や生計を脅かす「脅威」や「リスク」を見つけ出す研修を受けそれに備えるボランティアは地域住民自身であり、主に住民ボランティアの力で成り立つプログラムだからです。当初、脅威やリスクを見つけ出すのは大変でした。住民は「ニーズ」を見つけ出すのに慣れていたのと、確かに「ニーズ」は「脅威」や「リスク」とある程度重複するからです。このプログラムの考え方は OPT の人々にとって新しいものでした。それは、DRR と CCA を統合している点です。リスク要因を軽減し、最近激しさを増している気候変動に適応することによってのみレジリエンスは実現できるのです。

従来のニーズ評価は大抵男性と女性という2つの分け方をします。しかし、このプログラムで YWCA は「住民参加型の脆弱性および能力の評価」(PVCA) と呼ばれる方法を採用しました。この方法は、ジェンダーや障がいなどによって社会から取り残されたグ

ループを含め、コミュニティを構成する人々すべてを対象にします。今回 PVCA に参加したグループの中には自分たちが認められたと感じ、相談され意見を聞かれたのは初めてだと言うグループもありました。研修期間中、参加者は自分たちが主体となる行動計画を自ら作りました。そのおかげで、2012 年～2013 年にすべてのコミュニティでおこなわれる実践に対して住民たちは当事者意識と責任感を持つことができます。

レジリエンスにおいて「持続可能性」はキーワードですが、激しい紛争地域で持続可能な開発を実現するのは困難です。しかし、外部に支援を求める前に地域住民として自分たちのために何ができるか、また、自分たちの生活に影響を及ぼすものが何であれそれを克服あるいは軽減するために一つの強固な組織として地域住民がどう協働できるか。こうした点を考えてみるのにこのプログラムはよいチャンスだと思います。さらに、地域住民が災害救援活動から災害への備えに考えをシフトさせ、災害防止のために自分たちが今直面する脅威に対処するのに役立つかつでしょう。■

健康・尊厳・正義を求めて行動を起こす

2012 年国際エイズ会議

ダナ・アワード

2012 年 7 月にワシントンで第 19 回国際エイズ会議が開催されました。世界 YWCA は、16 か国、21 人の若い女性の代表団とともに同会議およびそれに先立つインターフェイス(宗派を超えた)・プレ会議「健康・尊厳・正義を求めて行動を起こす」に積極的に参加しました。コンベンションセンターには 2 万 1,000 人以上の代表が集まりましたが、その多くは HIV ポジティブで、自分が HIV ポジティブであることを躊躇せず公表しています。パレスチナ YWCA の代表として会議に参加する機会を得たパレスチナ・クレフト・ソサエティ医療センター(Palestine Cleft Society Medical Center)生物学研究所長でラマラ YWCA 運営委員のダナ・アワードは、会議の感想を語ります。

第19回国際エイズ会議に参加する機会を与えてくださったYWCAに深く感謝しています。今までに何度も会議に参加したことはありますが、今回の体験はこれまでとは違っていました。なぜなら今回私は科学者としてではなく、YWCA代表の一員で医療を推進する者としての参加だったからです。このため、私が求めていた情報はこれまでとは違いました。実験計画でも科学的データでもなく、アプローチや解決策、それに成功例について知りたかったのです。

しかしプレ会議では、医療を推進する人やHIV患者が今日いまだに直面している困難を認識しました。科学は飛躍的に進歩し解決策を創出してきましたが人々がこの困難を解決するにはまだまだ長い道のりがあります。女性たちが世界のかなり多くの地域で不当に評価され不公正に扱われているのを知りショックを受けました。女性たちがいまだに権利を侵害され、レイプされ、セックスワーカーとして働くことを強要されており、子どもたちはいまだに暗黒の未来を生きるために生まれてきてきます。

インターフェイス・プレ会議でのハイライトのひとつは代表団のマリア・ジウエンジが全体会議の1つで発表をおこなったことです。彼女はHIVポジティブの若い女性としての個人的な体験を語りました。それはとても感動的で聴衆に訴えかける発表で、私はYWCAの一員であることをとても誇りに思いました。私にとってはHIVポジティブの人との交流は初めてで、特別な気持ちがありました。また、他のHIVポジティブの女性たちの経験も聞きました。さらに自分がHIVポジティブであると知り、そのことでコミュニティに拒否された後成し遂げたことについて知りました。これらの話にとても勇気づけられました。というのも彼女たち一人一人が、前向きに行動していたからです。2012年国際エイズ会議のオープニングでは女優のシャロン・ストーンがエリザベス・テイラーAIDS基金について語り、二人のイラン人の医師にエリザベス・テイラー賞を授与しました。この基金について知り、イランの囚人のHIV治療に従事しているイラン人医師に賞が授与されたことを大変嬉しく思いました。この会議中に



多くの成功例を聞きました。私は、2009年以來アメリカの首都ワシントンではHIVポジティブで生まれた子どもが一人もいないことを知りました！翌日の会議ではヒラリー・クリントン米務長官がスピーチをおこない、HIV予防と治療を支持する彼女の意志と、オバマ政権の尽力を宣言しました。同日、アメリカ国立アレルギー・感染症研究所所長のアントニー・フォーチが、科学の功績とコミュニティに期待されること、割礼やコンドーム使用などのいまだに立ち遅れている防止策について力強く有益なプレゼンテーションをおこないました。

私は10年以上研究をしてきましたが、今でも科学が先導し、成し遂げている成果について知ることができ、とても嬉しく思いました。そのほかに大臣、政策立案者、企業のトップ、HIV患者、それにセックスワーカーなど、多くの発言者が会議に出席しました。他では決して会う機会のなかったであろう人々と出会い、語りあうことができました。そして、会議の期間中、中東および北アフリカ地域(MENA)のHIV/AIDSの状況についてさらに学ぶ機会を得ました。これからやらなければならないことは多く、非常に困難な状況です。MENAは世界で最も新規感染率が高い2つの地域のうちの1つです。パレスチナではAIDSは深刻な問題とは言えないかもしれませんが、多くの感染しやすいリスクの高いグループを抱えており、その数は増加

しています。パレスチナには健康やライフスタイルを脅かすさまざまな要因があります。この危険が手に負えなくなる前に今すぐ、私たちは自分たちの将来を救うために行動を起こさなければなりません。

2012年国際エイズ会議に参加するため、そしてパレスチナYWCA代表としてワシントンに来ることができたことは大変な喜びでした。このような会議に出席したことは素晴らしい経験でした。科学はHIV/AIDSとの闘いでは大変な進歩を見せていますが、人々が課題を解決するにはまだ長い道のりがあります。政府、指導者、人々は潮流を変えるために共に活動しなければなりません。HIV/AIDSは罪でも恥でもありません。

追記：インターフェイス・プレ会議で、HIVポジティブの5人に1人が自分の感染を知らずにHIVと共に生きていることが明らかになりました。HIV/AIDSについてオープンな話し合いをおこない、HIVの検査を受け感

染の有無を知るために継続的に働きかけることが緊急課題となっています。100万人以上の人々が毎年AIDSのために亡くなっていることが明らかになった2011年に実施された直近の調査についても、より詳しいデータが共有されました。したがって、HIVの治療と予防に投資し資金を提供することと、HIV/AIDS撲滅のために一致協力して取り組むことが最も重要です。■



若者による対話型手法：参加し変革を求めて活動するために

マヤダー・タラジ

「YWCAという卓越した組織で働き始めて11年になります。今まで常に目にして来たのは、YWCAが若者や若い女性メンバーにさまざまな機会とチャンスを与え、それによって彼女・彼らが知識を得て、新しいスキルを学び、新しい出会いを経験し、違う世界を知り、結果的にエンパワーされる様子でした。

2012年、私は「スウェーデンYWCA/YMCA教育週間研修」の「変革のための活動」と題するプログラムに参加するパレスチナ青少年グループのコーディネーターに選ばれました。研修は8月16日～23日にスウェーデンのアングスホルメン島で開催されました。参加国のスウェーデン、ベラルーシ、レバノン、パレスチナから各5人の若者が集いました。

パレスチナからの参加者はラマツラYWCAのラゲ

ハド・アブ・シャムシエおよびモハメド・アブ・ファノーネ、エリコYWCAのクリスティン・ダルウィツシュ、エルサレムYWCAの女性部コーディネーターのナヒール・バルバザとグループコーディネーターの私です。

私たち代表団は研修に先立って準備を十分おこないました。合同ワークショップのために役割分担をしました。研修の中心課題はジェンダーに基づくリーダーシップと若者のエンパワメントでした。プレゼンテーションの準備に加えワークショップには対話式の作業やゲームも含めました。ブレインストーミング(アイデアを出し合う作業)のセッションでは討論に加わったスウェーデンの専門家と一緒に意見交換をしました。これは私や代表団にとって大きな学びの経験でした。ジェンダーの問題について深く知り、他の参加国でジェンダーの問題がどのような状況にあるかを知るよい機会でした。

ラゲハド・アブ・シャムシエ

この研修はとても面白くなるだろうと期待していました。参加者の出身国がさまざまであることがわかっていましたから。期待通りでしたが、異文化間に多くの違いを見いだすと思っていたところ、実際はジェンダーの一部の問題については類似点が多いのに気づきました。このことに少し驚きました。そしてほとんどの考え方は世界中で同じだとわかりました。

クリスティン・ダルウィツシュ

この研修はジェンダーの問題だけではなく、異文化やNGOの活動について、そしてそうした問題がどのように対処されているかについての知識を深めてくれました。他の国の人々と新しい出会いを持ち多くの人と友人になれたのは素晴らしいことでした。現在の私はYWCAについて新しい見方ができるようになりました。今まで以上に積極的に行動し新しい情報や知識を得たいと思います。

ナヒール・バルバザト

この研修に参加できて大変感謝しています。さまざまな国のジェンダー問題の分析について十分知ることができ、各国がコミュニティの中でどのようにジェンダー問題に対処しているかを示してくれたからです。私はジェンダーの分野で女性や若者たちと一緒に活動しているので、研修参加によってトレーニング・スキルが向上しました。同時に情報が増えトレーニング・スキルが磨かれ、パレスチナのコミュニティで若者や女性たちのためのワークショップを実施する方法を学びました。

「若者による対話型手法：参加し変革を求めて活動するために」のもう一つの例は「グローバル・ウィークとティーンエイジャーのフェスティバル(TT)」です。これはノルウェー最大規模の若者の集まりの一つで、およそ2千人のノルウェーの若者と世界中の若者の代表団が参集します。今年は6月20日～7月1日に開催され、テーマは「若者の声で貧困をストップ」でした。今年はエリコ YWCA のミネルバ・ハルテーとJAI(Joint Advocacy Initiative)のキャサリン・アブ・アムシャがフェスティバルに参加しパレスチナの若者の主な課題について発表しました。また民族舞踊ダブカも紹介しました。

ミネルバ・ハルテー

参加した「グローバル・ウィークとティーンエイジャー・フェスティバル(TT)」は大変興味深い有益なものでした。オスロを訪れ、各国の若者と交流するよい機会でした。私たちの背景はさまざまですが一つの家族のような気分になりました。フェスティバルはとても楽しいものでした。ステージでのパフォーマンスやゲームやさまざまな活動、ワークショップやお祈りなどをともにおこない楽しみました。また、気候変動について学び、「ストップ貧困キャンペーン」に参加するなど大変有意義なものでした。多くの若者はパレスチナについて全く知らなかったのので、私たちの現状を共有し、パレスチナ YWCA について説明するよい機会となりました。ノルウェーYMCA/YWCA およびYグローバルの温かいもてなしにとっても感激しました。そして開発大臣に会えたのは貴重な経験でした。どのようにすれば若者の声が実際に変化をもたらすことができるか教えてくれた素晴らしい体験となりました。■



紫のユリ(パレスチナ女性)レイプ事件

パレスチナ女性殺害をめぐる沈黙

ディアラ・カラフ

聖なる断食月(ラマダーン)中にパレスチナで3人の女性が殺害されたというニュースに、私たちはみな、悲しさで胸が張り裂けそうでした。この事件は、パレスチナの女性の権利が否定されている傾向を示すものです。さらに、被害者女性に対して、恥をもたらしたと非難する噂や意見が広まりました。このような批判は、私たちの社会において、女性が安全に暮らせる環境を促進することの重要性について認識が欠如している表れであり、心が痛みます。

多くの調査から、ジェンダー平等度の高い法律や規則を持つ国は、女性の権利が認められていない国よりも投資率や生産性が高く、急成長を遂げ、貧困も少ないことが明らかになっています。私たちパレスチナ人が開発に真剣に取り組み、心から繁栄を望むのであれば、女性を低い地位とみなす差別的な

社会の意識をなくすために、まず身分法と刑法の差別的な法律を改正する必要があります。

これらの法律を改正することは、社会にとって有益です。パレスチナの人口の忘れ去られた半分、すなわち女性に投資すれば、パレスチナにおいて持続可能な発展と社会的公正を促進することになるからです。女性が家族の幸福と社会の発展に貢献できるような法的地位を全面的に実現すれば、繁栄はより目に見えるものとなるでしょう。社会全体のジェンダー平等を向上させるためには、母性の社会的重要性と出産・子育てにおける女性の役割を差別の根拠とするのではなく、むしろ男女間の責任の共有として考えるべきです。

名誉の名を借りて、または男性による女性の監護の証しとして女性を殺害することは、パレスチナ社会に社会文化的に困難な状況を生み出し、女性に対する不健康で差別的な慣行を助長させています。ガザ、トゥルカレム、ベツレヘムで女性が冷酷に殺され、その場にいた目撃者も立ちすくんだままで彼女たちがレイプされるのを防ぐことができませんでした。この事件も、こうした不健康で差別的な慣行がもたらした一例です。パレスチナの女性は「紫のユリ」と呼ばれ、このユリはパレスチナの庭を飾るもので、その優しい香りを通して、社会の安定と完全性を象徴しています。

ここで提案している女性問題に取り組むための法律改正には、警察、司法、統治機構(通常、女性が政治や市民生活に平等に参加するのを妨げていますが)を含むあらゆる機関による効果的な実施メカニズムが必要であり、また、人権と女性のエンパワメントの分野で活動する草の根組織の役割が大きいことは重要な点です。



パレスチナの身分法は宗教的・部族的慣習に従ったものであり、結果的に女性の法的地位と権利はこれらの慣習によって形づくられています。そのため、特にパレスチナのように家父長制社会と考えられているところでは、社会を支配し、女性の劣等性や従属性を助長する社会的概念や伝統は、ジェンダー不平等を増大させ、悪影響を及ぼすのです。

パレスチナでは、女性に対する法的介入や法改正に大きな障壁が3つあります。それは、宗教、伝統そして政治です。伝統に関しては、各人の文化的背景や年齢、地域によって異なります。例えば、農山漁村部に住む人々は都市部に住む若い人々に比べ、より伝統的な考え方を持つ傾向があります。また一方で、パレスチナにおける宗教は、ジェンダーに基づく差別的な待遇を認めています。根強い慣習的、宗教的な考え方は、それ故に女性の法的身分の改善を困難にし、慣習的、宗教的伝統を変える新しい法律を受け入れないかもしれません。そして政治レベルでは、社会のある部門がジェンダーの平等を認めるとしても、他の政治的部門は法改正に強硬

に反対しジェンダー平等の問題提起さえも拒絶するでしょう。というのは、これらの考え方を「西洋の文化や考え方を押しつける、誤った企て」だとみなすからです。

パレスチナの法制度には、古い伝統と社会規範に由来する法律(憲法)と規則の根本的な改正が必要です。ジェンダー平等の原則に基づいた統一されたパレスチナ身分法の制定、およびジェンダーに偏見があると考えられている「身分法」と「刑法」の中の法律や規則への緊急介入が必要です。

パレスチナ社会で起きた女性のレイプ事件をめぐる沈黙と歪曲された人々の態度は、国家レベルと同様に家庭における女性たちの従属を表しており、またパレスチナにおける法改正が一向に実を結ばないことを示しています。パレスチナにおける国家の建設期間は、ジェンダーに配慮した立場から法律を見直し、再構築し、その結果、女性のおかれている苦しい法的身分を改善する絶好の機会をパレスチナに与える「希望の窓」であるべきです。■

ディアラ・ハリール・カラフは、ラマツラに住む若い女性です。彼女は勇気を持って女性と人権についてエッセーを書いています。ディアラは、「私たちの伝統は、権利と責任の両方で、男性と同等のパートナーとして女性の自立とエンパワメントをサポートするべきである」と考えており、それを広めることを目指した発言のひとつを私たちに伝えています。「金曜日にはパレスチナのあちこちの村で、夕暮れに農夫が追い集めた家畜の群れから立ち上るジャコウの香りに混じって、明け方に老女が焼くパンのかぐわしい香りを嗅ぐことでしょう」



真のパートナーシップとは？

政治・社会におけるパレスチナ女性の役割

タミ・ラフィディ

2012年11月29日 国連総会はパレスチナに、非加盟国オブザーバー国家の地位を与えることを採択しました。タミ・ラフィディは待ちわびていたこの前日に個人的な意見を述べました。

国連での非加盟国決議を明日に控えたパレスチナでは、新たな段階への準備を進めています。私たちは「国家」になろうとしています。つまり、パレスチナ人はイスラエルによる残酷な占領下におかれている国としてのナショナル・アイデンティティを持つようになるのです。国連はイスラエルによる占領を終結させる全責任を負うべきです。また、私たちはこの決議を求めています。私たちの存在を世界中に知らせるため、そしてイスラエルがさまざまな合意や世界人権宣言、国際人道法、ジュネーブ第4条約に違反し続けているにもかかわらず、二国共存案を守るためです。

国家として認められることは、私たち女性にとってどのような意味を持つのでしょうか？ 私たち女性は、パレスチナ社会の約半数を占めており、それは女性も解放運動や国家建設において主要な役割を担うということです。いかなる先進国であっても、政治や社会への女性の十分な参加とあらゆる生活の場でのジェンダー主流化なしで、発展し国家を築き上げることはできません。

私たちパレスチナ女性は闘士です！ こう書いていると、微笑みが浮かびます。私が生まれてからずっと、女性が社会的かつ政治的にどのように生き抜いてきたかを見てきたのをこの言葉は思い出させてくれるからです。追放された中での革命において、オスロ合意後の国家建設期、そしてパレスチナ紛争を通じて、パレスチナ女性は独立国家をめざす解放運動に積極的に関わってきました。1980年代後半、私はとても幼かったにも関わらず、「女性はパートナ

だ！」と男性が言っていたのをはっきりと覚えています。これをおそらく私は潜在意識の中で、「女性たちは路上で男性と並んで立ち、日々の衝突やデモも男性とともに耐え抜いている。女性も男性と同じである」といったように理解したのでしょうか。私は「パートナーシップ」という考えが好きになり、女性としてのアイデンティティを占領下に生きる一人の人間としてのアイデンティティに融合させるようになりました。私は当時女性としてのアイデンティティの一部をある意味失っていました。というのも、「パートナーシップ」という考えは多くの意味を持っており、私はパートナーシップの意味を、「闘いへの全面的参加」それだけと理解していました。

しかし、私は間違っていたことが明らかになりました。年齢を重ね、パレスチナの国家建設を目指ささまざまな状況に置かれるようになり、そして女性が真のパートナーとして見なされるべき状況で、この「パートナーシップ」自体に問題があるのが分かってきました。デモや衝突、反乱の時に女性がパートナーとしてみられるのと同じように、平等と社会的正義が実現している国家においても女性はパートナーであるべきです。

突然「パートナーシップ」という考えが異なる面を見せ始めました。一方から見れば継続する占領によりパレスチナ人として自分の存在のために闘うことを要求され、他方では男性優位の社会が、女性として自分の存在のために闘うことを要求するのです。もっとも困難な時代に有能で役立つと認められ、女性として私は平等な機会を得るに値するのに、往々にし

て男性がその機会を一人占めにし、女性を取り残されていることがすぐにはっきりとわかりました。この時、機会が与えられるのをただ待つのではなく、自分から機会をつかみにいき、対等であるときちんと社会に認めさせようと決心しました。

私たちは本当に力強い闘士です！女性には困難に立ち向かうと私は信じており、また、真の献身と情熱があれば求めるものは手に入れることができることが経験から立証されています。最も安易なことは、あきらめることです。しかし、私は「あきらめるという選択肢はない」ことを選びます。実際、唯一の選択肢は、求めるものために闘い、あらゆる機会をとらえ、自分自身を愛し、情熱を持って闘うことです。このようにすれば、女性には本当の「パートナー」になれるのです。

2012年11月の第2週に、YWCA国際研修会(ITI)が韓国のソウルで開かれました。「パートナーシップ」を求める闘いに関して、女性には同じ困難を背負っていますが、社会的・政治的背景はさまざまに異なる問題を生み出しています。全面的に社会的課題に取り組める女性のニーズは、紛争地域で活動する女性のニーズとは異なります。この研修を通して私はこのように気づきました。ITIでもっとも実りある経験は、さまざまな国から来た女性たちと出会い、彼

女たちの暴力根絶の運動について学び、感動的な話を聞いたことでした。この経験によって、私はパレスチナ社会の課題や、私たちのコミュニティに変革をもたらす方法について深く考えさせられました。政治的状況から距離を置くことは、女性として私には難しいと認めざるを得ません。女性に対する暴力を占領の暴力と切り離すことができないからです。まず第一に占領停止を要求せずに、さらなる一歩を踏み出す方法を見つけるのは難しいとわかりました。国連女性の地位委員会(CSW)の声明文のために世界各地のYWCAのメンバーと共に草稿を作る際、この問題を強調することができうれしく思いました。

私はパレスチナ人の女性であることをどんなに誇りに思っているかを全世界に向かって言いたいです！私はどれだけこの国を愛し、発展プロセスの役割を担うことを望み、そしてもっと大切なこととして、これ以上の痛みと苦しみから人々をどれほど救いたいか。このようなことを色々な経験を通して一層自覚するようになりました。まず第一に、私は変革を創り出す力を備えた本当の「パートナー」になることを望んでいます。女性が国家建設ばかりでなく自由を求める闘いにおいても重要な役割を担う時に初めて、この願いが達成されます。結局、私たちが求める力を得るには、力を組織化する必要があります。

タミ・ラフィディは政治活動家およびアナリストで、WCLAC(Women's Center for Legal Aide and Counseling)の内部監査役兼コンサルタントとして働いています。またラマツラ YWCA の運営委員でもあります。



変革をリードする若い女性をエンパワーする

若い女性と共に活動するための基本方針

世界 YWCA が作成し、UNFPA(世界人口基金)の賛同を得た研修マニュアルから

尊敬

若い女性のリーダーシップと、困難に打ち克つ力を信じる。若い女性を導くための場を創り支援する。

寛容

創造的かつ寛容になる。若い女性の独創的な問題解決法を尊重し励ます。

相談

私たちが直面している問題の解決方法を若い女性に尋ねる。私たちの生活に影響を与える意思決定に若い女性たちが関わるようにする。

経験

若い女性は行動することで最もよく学習する。実験的に学習する機会を与え、リスクを受け入れ、失敗から学ぶ。

ピア・ラーニング(仲間同士の学習)

若い女性は、他の若い女性からライフスキルを最も早く学ぶことができる。お互いに協力して学ぶ場を与える。

楽しみ

笑い楽しむことを忘れない。若い女性は、たとえ社会の変革のための活動が辛い時であっても、楽しく過ごすことの価値を理解している。





パレスチナ YWCA ニュースレター2012
日本語版

2013年11月発行

翻訳協力

日本 YWCA コモン・コンサーン翻訳グループ

浅原由美・加藤美恵子・黒木聖司・
小泉延枝・古賀佳子・今野菊代・
林加奈・宮坂浩美・山高万寿子・
横山雅代・吉田亜希

編集・発行 日本 YWCA

〒101-0062 東京都千代田区

神田駿河台 1-8-11

東京 YWCA 会館 302 号室

TEL:03-3292-6121 FAX:03-3292-6122

E-mail:office-japan@ywca.or.jp